巻頭言

ゼネコンの海外展開

松　井　波　夫

世界の建設市場は，世界経済が成長するなか拡大基調にある。新興国の経済成長，米国経済の復調等に伴い，世界経済は穏やかな回復基調にあり，今後も世界のインフラ需要は順調に拡大することが予想される。わが国建設企業の海外建設活動は，東南アジア新興国における社会資本整備の積極的な推進，日系企業からの継続的な受注，進出先現地の民間企業等からの受注等が堅調に推移し，2009年度を底として，2011年度には1兆円を回復し，その後，順調な拡大基調の中で推移している。

また，政府は，わが国成長戦略の柱の1つとしてインフラ輸出戦略を策定し，わが国のインフラ・システムの海外展開を拡大する目標を設定しており，これに伴い建設分野においても政府の積極的な支援などによる官民一体となった取組みにも期待感が高まっている。このような状況の下，わが国建設業の海外におけるビジネス機会は拡大するものと予想される。

わが国建設業を取り巻く現在の環境は，デフレ脱却と本格的な景気回復に向けての期待の高まりを背景に改善してきている。国内建設市場は，政府の国土強靭化対策の動き，東日本大震災の復興加速化，東京五輪の開催決定，民間設備投資の堅調な推移等から，人材や資機材の不安要素はあるものの，短期的には経営環境も大幅に改善されている。

しかしながら2020年東京五輪後を見通すと，内需は縮小すると思われ，今こそ，先を見据えた着実な企業体制を強化する必要があると思われる。

今後，わが国建設業の海外活動は，積極化していくと思われるが，海外事業はまだまだ多くの課題やリスクを抱えているとともに，世界のインフラ需要の増大とともにグローバルな競争は激しさを増している。特に，海外事業は，契約の不履行や資金回収問題など損益に直結した多くのリスク要因もはらんでいる。

このような状況下，海外における安定的で持続的な受注及び収益力の確保向上を図るためには，的確な情報に基づく機動的な事業推進及びリスク管理体制の強化，海外要員等の人材育成の強化，地元に根付いた活動や現地企業との連携の強化，事業価値の高い案件の発掘等，戦略的な取組みが不可欠である。さらに，エネルギーや環境面を含めた持続可能性を追求する課題への取組み，企業間連携，M＆A等の経営管理手法の検討，PPP事業等における参加･連携手法の検討等，既存事業からの活動範囲の拡大充実に向けた対応も急務となっている。

また，わが国政府開発援助（ODA）における建設分野の取組みは，これまで，その特性を活かしながら積極的に関与することにより，開発途上国の国づくりや人づくりに協力し，地域の社会・経済発展に一定の貢献を果たしてきており，今後も期待は大きいものがあるが，わが国ODAの予算が減少傾向にある一方，円借款を中心とした案件のわが国建設業の受注率が低下している。さらに，片務的契約や税金問題などから，利益の確保が難しい案件も見られる。

特に，海外事業を遂行する上で必要となる海外要員は，近年，高齢化，団塊世代の定年などから，中堅，若手社員を中心に不足しており，海外要員の確保・育成は喫緊の課題となっている。特に，海外工事は，国内とは大きく違った，文化，気候，習慣及び仕組みなどの中で工事を進めて行くもので，問題が発生した際に，自らが適切に対応し，問題解決を主導するための判断力及び実行力を有する人材，プロジェクトマネジャーが国内以上に重要となっている。

さらに，近年，邦人が巻き込まれる海外での事件・事故が多発生する状況下，円滑な事業実施にとって海外勤務者，海外渡航者に対する安全対策や危機管理の対応は，従前にも増して重要な取組みとなっている。

今後の海外市場の見通しは，アジアなど新興国を中心に市場の拡大が期待されるほか，堅調な経済を背景とする米国市場への期待が高い。

――まつい　なみお　（一社）海外建設協会――